

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 いかでさることは知りしぞ。(枕草子)

- (訳) 「」 「そのようなことを知っていたのか。」
 ①本当に ②いつから ③もう ④どうして

1 「」

2 さらに人に交はることなし。(徒然草)

- (訳) 「」 「人とつき合うことが「」。」
 ①それほどくない ②あまりくない ③まったくくない ④ほとんどくない

2 「」

3 梅は気色ばみほほ笑みわたれる、とりわきて見ゆ。(源氏物語)

- (訳) 梅はみな(ふくらんで)ほころびそうな「」のが、特に目立っている。
 ①雰囲気を漂わせている ②(花の)風情に趣がある ③色合いになっている ④きざしが見える

3 「」

4 明けぬれば暮るるものとは知りながらなほ恨めしき朝ぼらけかな(後拾遺和歌集)

- (訳) 夜が明けてしまうと、(再び)日が暮れ(てあなたに逢え)るものとは知っているが、「」恨めしい(別れの)朝であることよ。
 ①そうはいっても ②それゆえに ③なにより ④やはり

4 「」

5 葉も食はず。やがて起きもあがらで、病み臥せり。(竹取物語)

- (訳) 葉も飲まない。「」起き上がらないで、病気になって臥せている。
 ①じっと ②そのまま ③どうしても ④やはり

5 「」

6 千年万年と契れども、やがて離るる仲もあり。(平家物語)

- (訳) 千年万年(変わらず添い遂げよう)と「」ても、間もなく別れる仲もある。
 ①逢い続け ②夫婦でお願いし ③夫婦の約束をし ④逢うたびに考え

6 「」

7 大門のかたに、馬のいななく声して、人のあまたあるけはひしたり。(蜻蛉日記)

- (訳) 大門の方に、馬のいななく声をして、人が「」やってくる様子がした。
 ①少しずつ ②急いで ③たくさん ④数人

7 「」

8 つた・くず・朝顔、いづれもいと高からず、ささやかなる牆に、繁からぬ、よし。(徒然草)

- (訳) (秋草として) 蔦・葛・朝顔は、どれも「」高くなく、小さな垣根に、密生していないのが、よい。
 ①たいして ②たいそう ③そのように ④まったく

8 「」

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 かくて、翁やうやう豊かになりゆく。(竹取物語)

- (訳) こうして、(竹取の)翁は「」豊かになっていく。

9 「」

10 女、いと悲しくて、しりに立ちて追ひ行けど、え追ひつかで、清水のある所に伏しにけり。(伊勢物語)

- (訳) 女は、ひどく悲しくて、(男の)あとを追って行ったが、追いつくことが「」、清水のある所に倒れてしまった。

10 「」

11 身も亡びなむ、かくなせぞ。(伊勢物語)

- (訳) 身も破滅するだろう、こんなことをする「」。

11 「」

12 げにただ人にはあらざりけり。(竹取物語)

- (訳) 「」(かぐや姫は)普通の人ではなかったのだ。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P58～P66

- 1 「④」
- 2 「③」
- 3 「④」
- 4 「④」
- 5 「②」
- 6 「③」
- 7 「③」
- 8 「①」
- 9 「だんだん」
- 10 「できず」
- 11 「な」
- 12 「なるほど」